

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和05年06月16日(金)

事務事業		渋沢栄一顕彰事業		担当課	渋沢栄一記念館	担当係	渋沢栄一記念館	管理番号	15121	
総合計画	大項目	2	次代を担う人と文化を育むまち		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
	中項目	2	誰もが生きがいをもち学ぶことのできるまちづくり		根拠法令 個別計画等	文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、深谷市文化財保護条例、深谷市渋沢栄一記念館条例、「渋沢栄一翁と論語の里」整備活用計画				
	小項目	4	渋沢栄一の顕彰と精神の継承							
	主要プロジェクト	1	渋沢栄一を核としたひとづくりプロジェクト							
事業概要		渋沢栄一記念館、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家を公開し、渋沢栄一をはじめとする郷土の偉人の事績を広く伝え、顕彰するものである。 連続講座「栄一塾」や、論語の里ガイドボランティアとの協働による「論語教室」等を開催し学習機会の充実を図り、また、その他のイベントを開催する。令和2年度からアンドロイドの運用を開始している。								
目的 ※何のために		渋沢栄一をはじめとする郷土の偉人の業績や魅力を発信し、広く知らしめるため。								
対象 ※誰・何を対象に		「論語の里」訪問者、ガイドボランティア								
手段 ※どのように		渋沢栄一関連施設の公開。施設パンフレットの配布。解説の実施。渋沢栄一アンドロイドの公開運用。栄一塾、関連イベントの開催。「論語の里」ガイドボランティアとの協働事業の実施								
成果 ※何を求めるか		郷土の偉人を生かした取組が推進されるよう、各顕彰事業への参加者や、論語の里エリアをはじめ深谷市への来訪者数を増加させる。								
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他( )								
事務事業を構成する 予算事業		区分	款		項		目		細事業名	前年度決算額(円)
		一般会計	2	総務費	1	総務管理費	9	地域文化振興費	渋沢栄一顕彰事業〔渋沢栄一記念館〕	42,989,956
本事業の 主な業務		・ 渋沢栄一記念館の管理・運営							・ 渋沢栄一顕彰協力員との連絡調整	
		・ 資料解説員、受付案内員、駐車場誘導警備							・	
		・ 渋沢栄一アンドロイドの運用							・	
		・ パンフレットの印刷、配布							・	
		・ 論語の里ガイドボランティアの育成、協働							・	
		・ 栄一塾、論語教室、まち歩きツアー							・	

2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年度別計画		主催事業の開催 ボランティア活動の支援 渋沢栄一顕彰事業への支援と協力	主催事業の開催 ボランティア活動の支援 渋沢栄一顕彰事業への支援と協力	主催事業の開催 ボランティア活動の支援 渋沢栄一顕彰事業への支援と協力			
事業費	予算(現額)	74,506,000	61,335,000	67,036,000	64,902,000		
	決算額	51,247,722	42,989,956	0	0		
	財源内訳	国支出金	57,000	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	
		他特定財源	36,773,000	1,146,700	6,806,000	4,843,000	
		一般財源	14,417,722	41,843,256	60,230,000	60,059,000	
人件費	従事職員数(人)	1.00	1.14	1.20	1.20		
	人件費相当試算※	7,761,915	8,971,295	9,835,664	9,835,664		
総事業費試算		59,009,637	51,961,251	76,871,664	74,737,664		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
実績値の算出式										
活動指標 1	渋沢栄一顕彰事業の実施回数	目標値	回							
		実績値		4.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所			論語の里まち歩きツアー、栄一塾、論語教室、旧渋沢邸「中の家」現場見学会						
	実績値の算出式									
活動指標 2	渋沢栄一顕彰ボランティア養成講座の実施回数	目標値	回							
		実績値		0.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所			ボランティア団体が発足し、養成講座の主催が団体に移行したため						
	実績値の算出式									
成果指標 1	渋沢栄一顕彰事業の参加者数	目標値	千人	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
		実績値		1.89						
	目標値の算定根拠/実績値の出所			まち歩きツアー、栄一塾、論語教室、スタンプラリー、旧渋沢邸「中の家」現場見学会						
	実績値の算出式									
成果指標 2	渋沢栄一顕彰ボランティアの人数	目標値	人							
		実績値		38.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所			ボランティア団体発足後は、団体が主体となって行う勧誘、養成活動に移行するため。						
	実績値の算出式									
活動指標 3	栄一塾開催回数	目標値	回	4.00	4.00	4.00	4.00	4	4.00	
		実績値		4.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所			年4回開催を目指す令和2年度以降は新型コロナウイルス感染拡大防止のため見直し						
	実績値の算出式									
成果指標 3	栄一塾参加者数	目標値	人	200.00	200.00	200.00	200.00	200.00	200.00	200.00
		実績値		178.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所			各回定員50名。但し令和2年度以降は新型コロナウイルス感染拡大防止のため見直し						
	実績値の算出式									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。  
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。  
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。  
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	新型コロナウイルスの感染拡大防止策を講じつつ、ほぼ計画通りに開催することができた。旧渋沢邸「中の家」の現場見学会（工事中の主屋内内部現場見学会）は、令和4年度にしかできない事業であり、貴重な取り組みであった。栄一塾は、約3年ぶりに対面講義、バスツアーを企画し、感染対策を講じながら行うことができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	渋沢栄一顕彰事業の参加者数については、コロナの影響もあり目標値に達しなかったが、各事業とも一定の参加者があり顕彰の成果があった。また、旧渋沢邸「中の家」の屋根瓦改修プロジェクトを実施し、支援者数888人、寄附金額14,255,000円（目標金額10,000,000円）の実績をあげた。
評価者			渋沢栄一記念館長補佐 馬場 裕子

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。  
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	A	「渋沢栄一翁と論語の里ボランティア」との協働による論語教室、まち歩きツアーなど、充実した顕彰事業ができた。スタンプラリーについては紙によるスタンプラリーと今年度よりアプリによるスタンプラリーを実施し、参加者の利便性が向上した。
評価者			渋沢栄一記念館長補佐 馬場 裕子

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	引き続き感染拡大防止に配慮しつつ、より魅力的な事業内容や、参加方法を検討し、顕彰の推進につなげていく。 ガイドボランティアとの協働による活動のいっそうの拡大に向けて研究、協議など事業反映していく。質の高いおもてなしを提供するために必要な研修を行う。
達成状況及び その効果	感染拡大防止対策については、各事業ごとに最新の注意を払いながら行った。その中で昨年度より内容の充実した事業展開ができ、参加者からも好評となった。 ガイドボランティアとの協働による活動については、打ち合わせ等を行い、各事業とも、おもてなしが充実した事業となった。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	渋沢栄一顕彰事業	担当課	渋沢栄一記念館	担当係	渋沢栄一記念館	管理番号	15121
<div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div> <div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div>		<div>評価の内容説明</div> <div>実施方法を工夫することにより、感染拡大防止策を講じながら、顕彰事業を実施することができた。引き続き、よりよい事業展開を行っていく。</div>					
<div>上記を実施するための具体的な取組内容は？</div>		<div>評価者</div> <div>渋沢栄一記念館長 栗田 誠</div>					

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	より、魅力的な事業や、参加方法を検討し、顕彰の推進につなげていく。 ガイドボランティアとの協働による活動の拡大に向けて、研究、協議し、事業に反映していくなど質の高いおもてなしを提供するため、必要な研修を行う。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	新一万円札発行の年にあたることから、注目が高まることに対応できるよう、顕彰事業の内容をさらに検討していく。 ガイドボランティアによる質の高いおもてなし提供に向けた研究や準備を行う。

8. 評価指標グラフ

